

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370600512		
法人名	社会福祉法人平和会		
事業所名	グループホームいいとよ(南乃家)		
所在地	岩手県北上市村崎野12地割74番地28		
自己評価作成日	平成24年8月3日	評価結果市町村受理日	平成24年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kanji=true&JiyosyoCd=0370600512-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1
訪問調査日	平成24年8月23日(木)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園地帯に立地し、敷地内には特別養護老人ホーム・デイサービス・ヘルパーステーション・在宅支援センターがある。自治会に加入し、地区清掃や運動会等の行事にせ積極的に参加している。毎月の誕生会では、花見等外出する機会を多く作って、他、家族にも協力が得られるような行事づくりも心がけている。また、家族交流会を年2回開き交流を図っている。居室担当制にする事により、職員一人ひとりが責任を持ってケアにあたるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入し、地域の清掃活動や行事に積極的に参加されている。お互いの協力体制が図られており、地域に根差したグループホームとして確立されている。グループホームの裏の林は、「市民の憩いの森」として地元の方々により整備が行われており、小学生や中学生が「憩いの森」を散策したり、グループホームの利用者の散歩道ともなっていた。また、グループホームと「憩いの森」の境には手入れの行き届いた花壇があり、やはり地元の方々により管理されていた。訪問診療や訪問介護との連携により看取り介護も行われている。介護度の高い入所者の方々も互いに支えあい、穏やかに、安心して過ごせる環境が整えられていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で考え、定期的に見直している。また、理念は目の付きやすい場所に貼り、常に確認できるようにしている。	理念は1、2年に一度見直しが行われている。また、玄関やトイレなど目につきやすい場所に貼り、常に職員の目に触れることで、理念の確認が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧版をまわしてもらい、地区行事に積極的に参加している。また、GHIに来て頂き、草取りを一緒にいり交流を図っている。	プルタブを集めて中学校に届けたり、職場体験として中学生の受け入れが行われている。また、地区の草刈りや草取りの参加も毎月参加しており、職員だけではなく利用者も一緒に参加されている。事業所の裏手にある憩いの森は自治会が管理して花壇等の整備をされている等、お互いの協力体制が確立されている。地域の行事にも積極的に参加されており地域との交流には積極的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校との交流、プルタブ・ペットボトルのふた集めの協力をしている。年4回発行の公報は、家族や隣接の交流センターに配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催し、利用者の状況や行事等報告し、意見交換や情報を頂いたりしている。	運営推進会議や家族会では事故報告などでもしており、コミュニケーションをよく図って、より理解を得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加。各種手続きに関して、助言・指導をいただいている。	利用者と一緒に各種手続きの為担当窓口を訪れる等の機会を設けている。手続きに必要な書類は利用者自ら署名している方もいる。災害時には市の担当者の見廻りがあったり、卵の差し入れがあった。運営推進会議への参加も得られており、事業所の実情を把握してもらい、助言につながっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠しているが、常時日中開放に向けて他施設へ研修へ行き、学んだことを活かしていけるように委員会や職員会議で話し合いをし、取り組んでいる。また、言葉による拘束についても勉強会を開き職員間で意識してケアに当たっている。	利用者の状況や、入浴介助などで職員の手が回らない時は施錠している時もあり、ノートにより施錠時間等記録している。外部研修に参加し、持ち帰った内容をホーム内の勉強会で伝達している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に職員間で意識してケアに当たり、見過ごさないようにしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームいいとよ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方はいない。今後、職員全員が理解できるように勉強会等を実施する予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面にて十分に説明し、疑問や不安点を聞きだしている。加算改定については、説明会を設けた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室担当制を設け、毎月利用者の状況を家族へ文章にて報告している。面会等の際にも近況を伝え、意見や要望を表せるように努めている他、年1回の総会、年2回家族会を開催して交流している。	面会記録簿に意見や要望を記入できるスペースを取っており、感謝の言葉が多く記入されている。この他、面会時に直接意見が話せる関係が築かれていて、人事異動などへの率直な意見もあった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議・業務改善委員会を開き、提案・要望等を聴取して業務に取り組んでいる。管理者と職員は年1回は個人面談して、職員の考え方を聞いて業務に活かしている。	出勤時間の見直しや、利用者の重度化による入浴時の介助など、業務の見直しが行われ、働きやすい環境作りに取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務環境を整え、子供があっても安心して早番・夜勤にも勤めることを念頭にして夜勤時間を短くした他、ベビーシッターを雇用し、保育所まで通所できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を積極的に受講させ、研修成果を3～5項目を目標にして自施設で取り入れ、3ヶ月・6ヶ月・12ヶ月まで実践成果を全職員で評価し、更なるレベルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会定例会に参加し、情報を共有してサービスの向上につなげている他、姉妹法人のGHとも定期的に集まり意見交換や交換研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅・病院・施設へ訪問し、本人・家族の不安な気持ちや移行を伺い、安心して過ごせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族の気持ち・意向を伺い、安心して利用してもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時に、状態について家族から話を伺い、必要時は担当ケアマネへ相談・連絡をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状態を把握し、出来る事を職員が見守りしながら行ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診後は、Drからの指示や処方箋等、1ヶ月の様子と共に家族へ送付している。体調の変化が見られた際は、その都度電話にて報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地区行事へ出かけ、近所の方と会えるようにしている。GHへ面会に来られた際、ゆっくり話ができるように配慮している。	面会に来られた時は居室に案内し、椅子やテーブルを準備してゆっくりと会話ができるよう配慮している。馴染みの美容院や、以前買い物をしてきた店に出かける支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や状況を把握し、トラブル防止に努めている。同じ興味をもっている利用者同士が関わりをもてるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も不安に思っていること等あれば、いつでも相談できることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情・行動等、観察や本人の意向を確認し、カンファレンスで話し合いケアプランに活かしている。	希望や意向を言葉で確認できない時には、普段の生活の中の表情などから推察し、職員で検討している。また、ご家族からの話や日々の行動観察をパソコンへ入力し、情報共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族やケアマネから情報を得ている。面会に来られた同居していない家族から情報をもろうこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情・行動・バイタル・申し送り等から状態を把握し、1日の過ごし方を考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護保険更新時、3ヶ月毎にケアマネ・居室担当者・介護主任・介護リーダーとカンファレンスを行い見直しを行っている。家族面会時に意向を確認している。	担当者会議の中で話し合い、プランに生かしている。また、家族の面会時に意向を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づきについて記録している。職員間で情報共有するため、申し送りノートを各自で確認してもらっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の希望により、通院介助・外食・床屋・買い物等の支援を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームいいとよ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し、地区行事に参加している。災害時、地域の方に協力してもらえるように避難訓練へ参加してもらうよう計画。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は家族にお願いしている。緊急時、入院が必要な時は職員と一緒に同行している。	日高見中央クリニックから月2回の訪問診療を利用している。また、かかりつけ医を利用している利用者もいる。かかりつけ医の受診は家族の協力により継続されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態で気になる事があれば訪問看護へ相談し、助言を頂き対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に施設での様子について情報提供を行っている。入院中に面会に行った後、看護師・医療相談室から状況を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期について対応出来る事を、入居時家族へ説明している。終末期の方については、家族・Dr・職員とムンテラを行い支援している。	医師、ご家族、職員で話し合いを持ち、看取り介護が行われている。急変時は訪問看護が対応する。輪番体制をとっており急変時に対応できるようにしている。また、医師と職員によりデス・カンファレンスを持ち、職員の思いが語れる環境が整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応マニュアル、急変時のマニュアル作成している。急変になる前に気になる事があれば、訪問看護へ連絡している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	7月に隣接する特養との合同訓練を行い、年度中にGH単独の避難訓練も行う予定。地域の方に協力していただけるように地区行事や常会に参加してお願いしている。	地域の方々の協力を得て、自衛消防団の立ち上げの取り組みの準備が進められている。大きな地震の時には短時間で職員が駆けつけて来られたなど、良い体制ができている。	グループホームに通所されている利用者もいるので、送迎時の災害発生についても検討する事により、送迎時の適切な避難ができる体制づくりに期待したい。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人を尊重し、誇りや自尊心を傷つけないような対応を心がけている。プライバシー保護についても、羞恥心を感じないように、声がけ、対応には注意している。	着替えやトイレの誘導の声掛けや介助には、特に配慮している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現できる方には選択の幅を持たせ、希望にそえるような対応を心がけている。自己表現できない方には、コミュニケーションや顔色・表情等でくみ取り意向を確認している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分によって、起床時間や食事時間などを本人のペースに合わせている。職員に余裕がない場合でも、職員同士で声を掛け合い対応し、出来る限り、利用者の思いを尊重できるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや季節に応じた対応をしている。馴染みの美容院に行かれる他、定期的に床屋さんに来苑して頂き散髪している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には希望にそったものや選択メニューを取り入れている。季節毎の行事職や行事メニューには、旬の物を使い提供している。食事の準備や後片付けは、利用者と一緒にやっている。	木曜日が選択メニューの日となっている。水曜日に選択メニューの希望を確認し、買い物に出かけて、準備している。2種類の食事の半分ずつの量を両方食べる利用者もいる。野菜の皮むきや米とぎが利用者により行われている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導やアドバイスを頂きながら、食事を提供している。個別に水分・食事摂取量・状況を記録し、今現在の栄養バランスを把握できるようにしている。水分も、場合によって甘いものやゼリーなどを用意し摂取しやすいよう提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは徹底し実施している。自力で出来る方には声がけで促し、出来ない方・磨き残しがある方には支援している。うがいが困難な方には、ガーゼで口腔内を拭き取り清潔保持している他、義歯の方は夜間消毒している。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームいいとよ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎月、排泄委員会を開き見直しをしている。個別の排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、トイレ誘導やパット使用について検討している。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、個々に合わせた介助がなされている。リハビリパンツから布パンツに変えられた方や、パットの使用量が少なくなった方など、改善がみられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、乳製品や寒天の摂取、こまめな水分補給を心がけている。毎日の食事にも食物繊維を取り入れるようメニューを考えている。改善されない方は、Drの指示の元、下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴としているが、その日の体調や気分、また本人の意思も尊重し対応している。入浴に抵抗がある方や気が乗らない方には声かけの工夫や時間をずらしたりしている。	利用者の重度化が進む中、一日おきに、個々の状況に合わせて入浴したいタイミングに合わせて入浴できるよう、介助されている。南乃家では重度化により半数の利用者が、職員二人の入浴介助が必要となっている。要望があれば毎日の入浴も可能だが、希望はほとんど聞かれなくなっている。	利用者の重度化が進んでいるため、リフト浴などを取り入れることで、利用者や職員の負担も少なく、安全に入浴できると考えられる。今後の検討を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週1回リネン交換をしている。利用者一人ひとり自由に居室にて過ごせたり、休息が出来るよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルに綴じ込み、いつでも確認できるようにしている。薬が変更になった場合は、申し送りに記入し全員が把握できるようにしている。服薬マニュアル、個々の服薬方法をマニュアル化し、飲み込みまで確認しながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の能力や週間、生活歴に応じた役割を持って頂いている。日々の活性化に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	重度の利用者も増え、施設の中で過ごしがちであるが、可能な限り散歩や買い物、外食等出かけられるよう支援している。季節を感じて頂けるよう、お花見やぶどう狩りなどに出かけている。	事業所の裏手には「憩いの森」が整備されており、敷地内で安全に散策できる場がある。散歩を希望する方はもちろん、車椅子の方や、訴えのない利用者も外に出られるよう心がけ、援助している。南部屋敷に食事に出かける利用者もいる。また、ぶどう狩りなど季節に合ったドライブなどが計画されている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームいいとよ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で所持している方は少なく、ほぼ職員が管理している他、立替払いにて対応している。自分で所持している方は、外出の際、持参していただき支払えるよう見守り支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時に電話をかけられるように対応している。手紙も好きな時に書けるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や家族様より頂いた花を玄関に飾っている。活動写真や行事の写真を壁に貼り、外出した時のことを思い出し楽しんでいただいている。食堂には天窓があり採光が良く、明るい雰囲気も持っている。2ユニットだが、各ユニットを自由に行き来できるようにしている。	南乃家や北乃家のユニット間を自由に行き来できる事で、利用者の気分転換になっている様子が見られる。空調設備が整っており、適切な気温になるように配慮されている。また、猫が飼われていて、利用者や職員がお世話をしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が一人になりたい時は、各々の居室で過ごしていただき、食堂などにも自由に行き来できるようにしている。ソファや談話室を利用し、利用者同士で過ごしてもらったり、利用者と職員1対1で話しができる環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはエアコンを設置している。各自テレビや家族写真・仏壇・装飾品など馴染みの物を持って来ていただいている。お花の好きな方は、居室に飾っている他、各居室には利用者自らが作った作品や塗り絵等飾っている。	お花の好きな利用者には、ご家族が季節の花を持ってきて飾っている。家族写真や作品が飾られており、本人の好みを考慮した部屋作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには貼り紙をし、居室が分からなくなる方には居室戸に名前を大きく書いて貼り、混乱しないようにしている。		